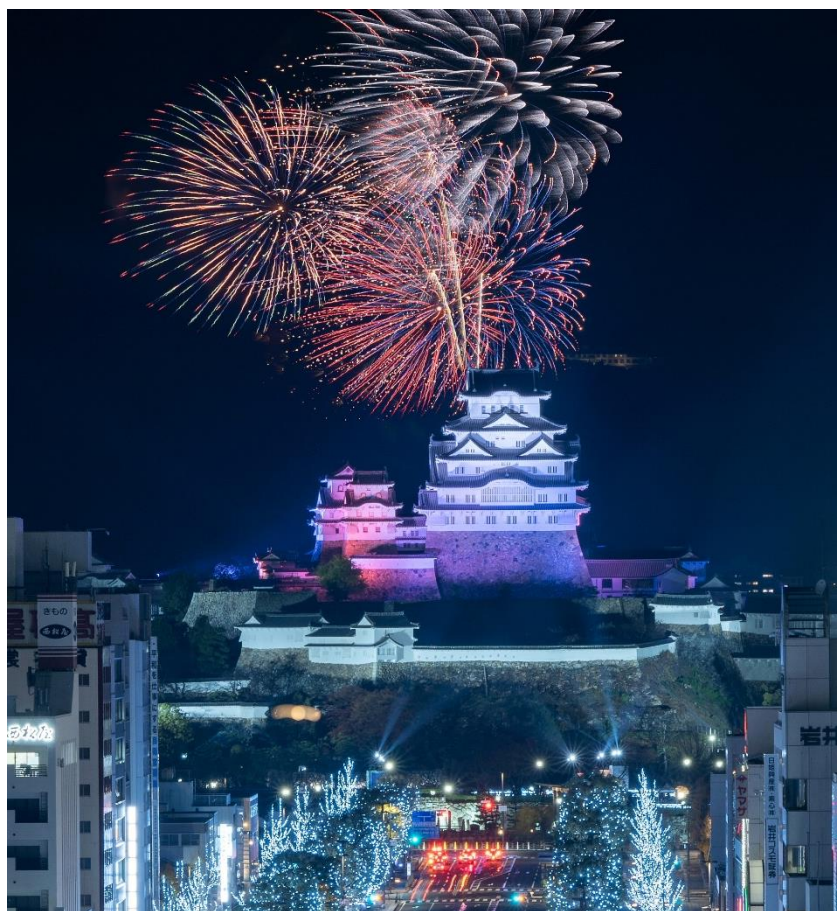


姫路市の 市民一人あたり決算

(令和5年度)



姫路城世界遺産登録 30 周年を記念した花火 (令和5年12月11日)

姫路市財政課

目次

1	はじめに～決算ってなに？～	P1
2	姫路市の歳入額は？	P2
3	歳入の種類は？	P3
4	市税ってなに？	P4
5	姫路市の歳出額は？	P5
6	歳出を目的別に分類すると	P7
7	歳出を性質別に分類すると	P8
8	基金ってなに？	P10
9	地方債ってなに？	P11
10	おわりに	P13
	用語解説	P14

1 はじめに～決算ってなに？～

決算とは、1年間（4月～翌年3月）に入ってきたお金（収入）と、それを何のために使ったのか（支出）をまとめたものです。

決算は議会へ報告することが法律で定められています。みなさんが納めている税金が正しく使われているかどうか、市民の代表である市議会がチェックしています。

ここでは、姫路市の令和5年度の決算額を市民一人あたりに換算（※1）し、総務省の定める統一的な会計区分である普通会計を用いて解説するとともに、県内の中核市（※2）の決算状況との比較も交えて、姫路市の財政状況について市民のみなさんとともに確認していきたいと思います。

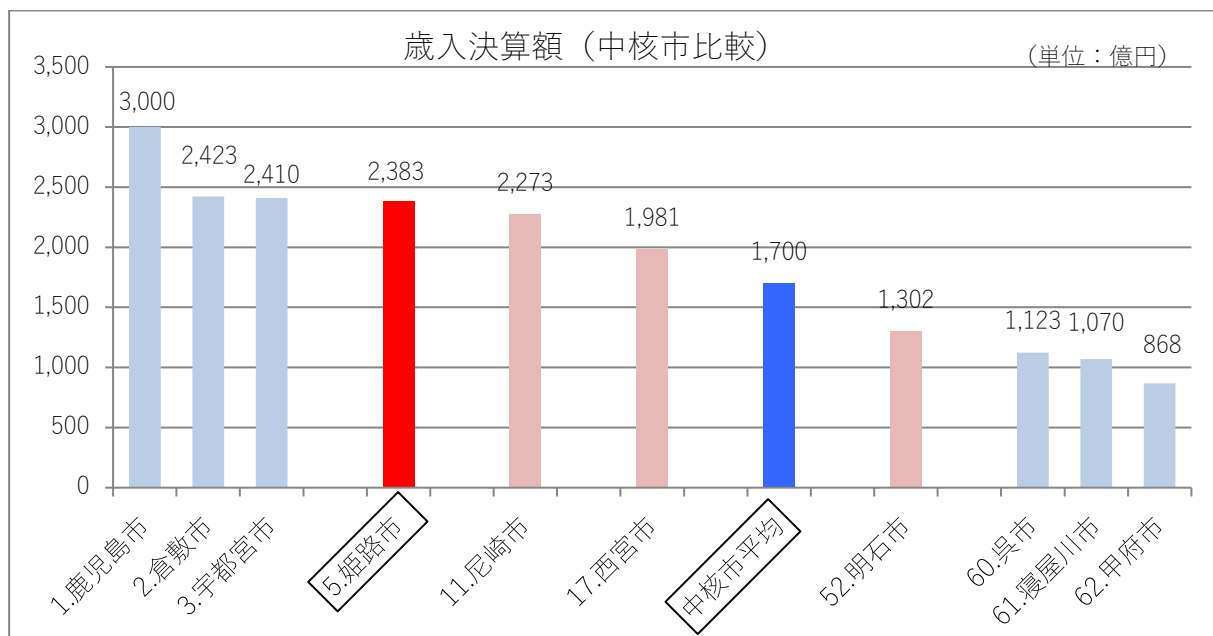
※1 令和6年3月31日時点の姫路市住民基本台帳人口 524,149 人で割ったもの

※2 令和6年4月1日現在 62 市。県内では姫路市のほかに尼崎市、明石市、西宮市

2 姫路市の歳入額は？

令和5年度の姫路市の歳入決算額は2,383億円です。

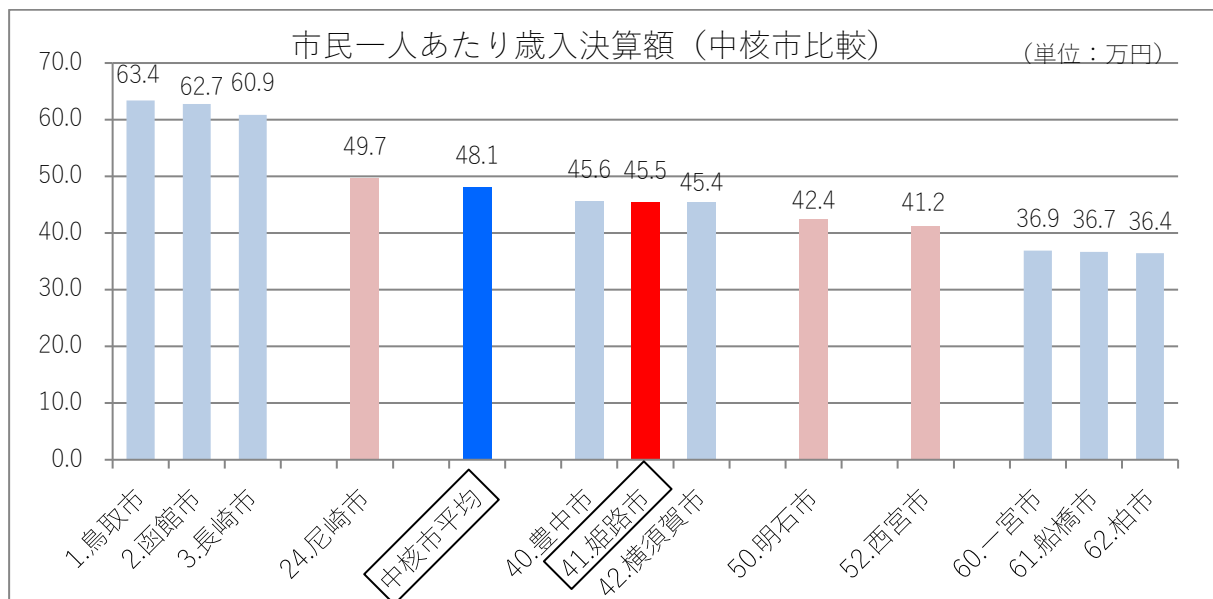
これは、中核市62市中5番目の規模で、中核市平均と比べると規模が大きいことがわかります。



中核市市長会『令和5年度地方財政状況調査』より抜粋（以下同じ）

歳入額を市民一人あたりに換算すると45.5万円です。

これは、中核市62市中41番目で、中核市平均をやや下回っています。



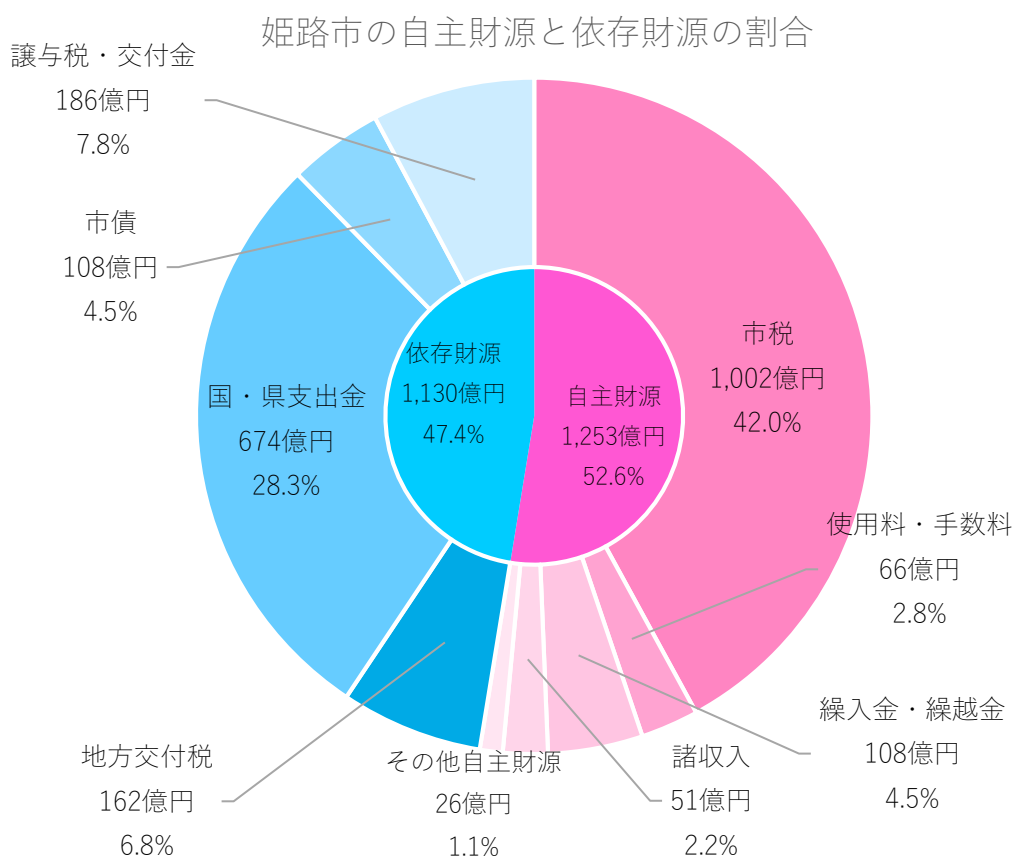
3 歳入の種類は？

次に、歳入の内容を見てみましょう。

歳入は、「**自主財源**」と「**依存財源**」に区分することができます。

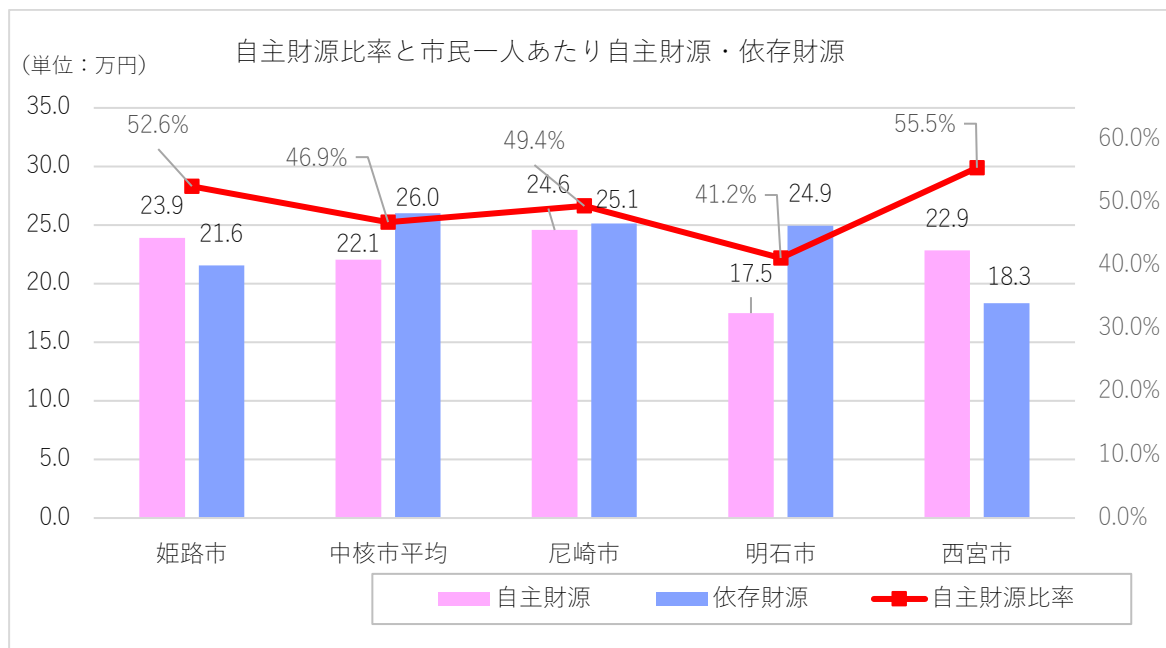
自主財源とは、地方自治体が自主的に収入できる財源です。一方、**依存財源**とは、国や県の基準に基づいて交付されたり、割り当てられる財源です。自主財源が多いほど、地方自治体の自主性や安定性を確保することができます。

姫路市の歳入に占める自主財源の割合（**自主財源比率**）は52.6%です。



市民一人あたりの自主財源を他都市と比べると、姫路市は23.9万円で、中核市62市中、多い方から数えて13番目、依存財源は21.6万円で、多い方から数えて49番目です。

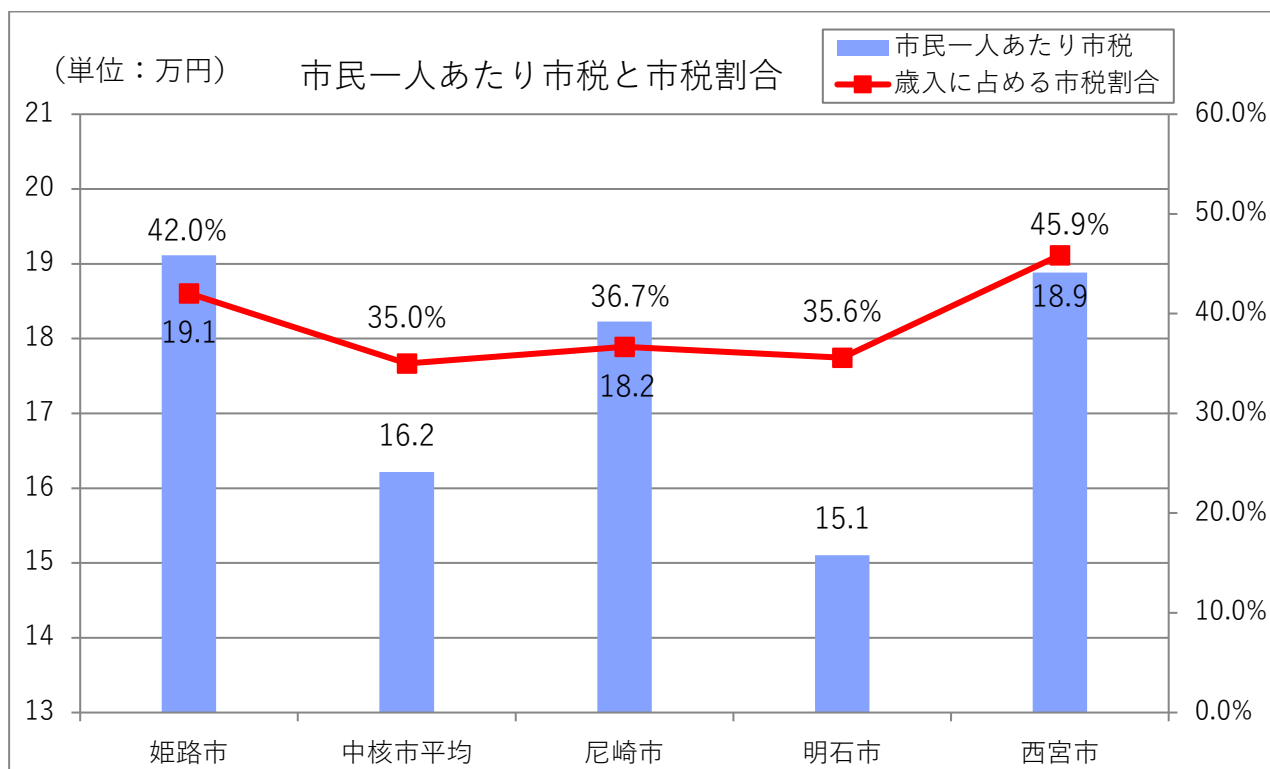
中核市平均と比べると**自主財源比率が高く、自主財源が多い**ことから、姫路市は中核市のなかでは財政運営の自由度がやや高いことが分かります。



4 市税ってなに？

姫路市の市税は、市民税(個人・法人)、固定資産税、軽自動車税、市たばこ税、入湯税、事業所税、都市計画税があります。

市税の収入額は 1,002 億円で、姫路市の歳入の 42.0%を占めています。



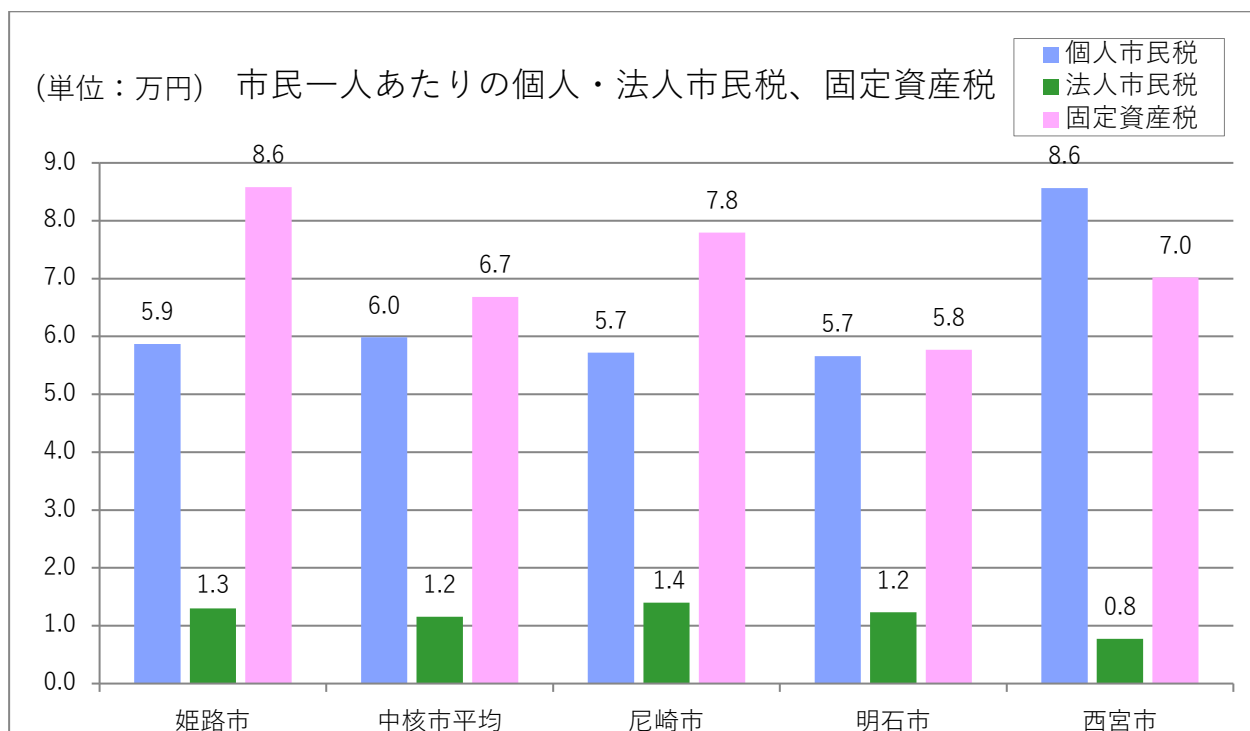


市民一人あたりの市税の額は19.1万円で、中核市平均の16.2万円を上回っています。

また、中核市全62市中では3番目に位置しています。

市税に占める割合のうち、最も多いのは固定資産税で44.9%、次いで多いのは市民税（個人・法人）で37.5%です。

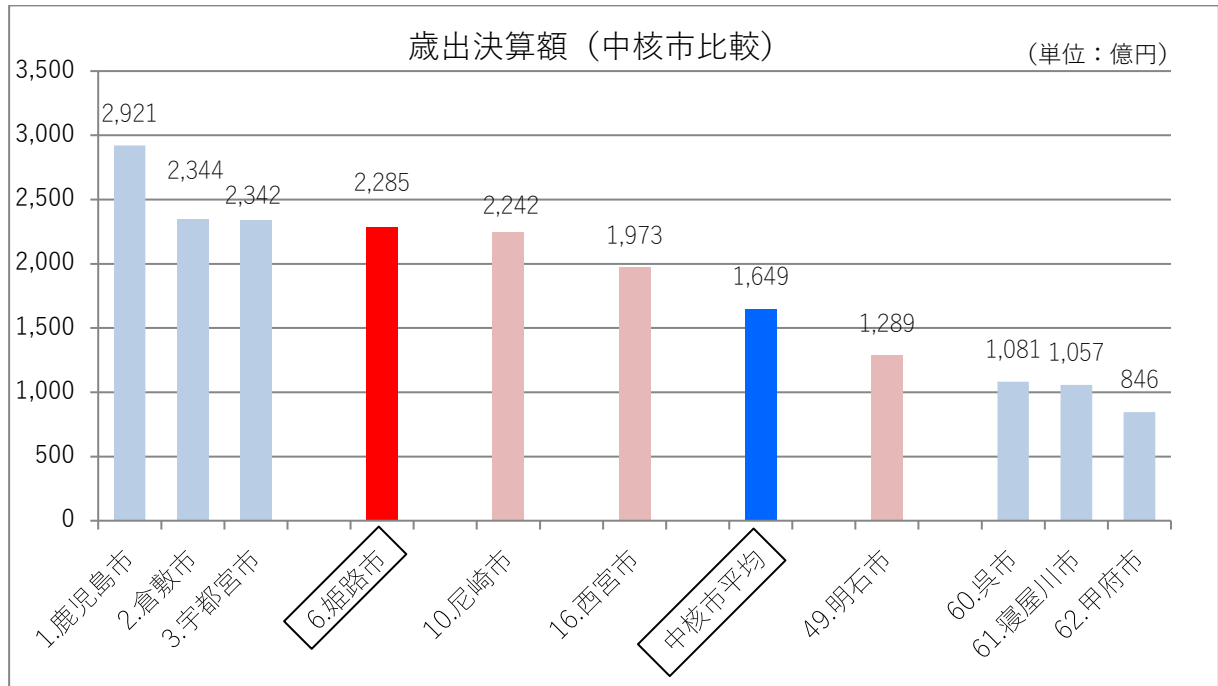
これらの市税の市民一人あたりの金額を他の中核市と比べると、市民税（個人・法人）は平均額と大きく変わりませんが、固定資産税は他都市よりも多いことが分かります。これは、姫路市沿岸部にある大規模な製造業の会社の償却資産（その事業で使用する資産のこと）に対する課税が多いためです。



5 姫路市の歳出額は？

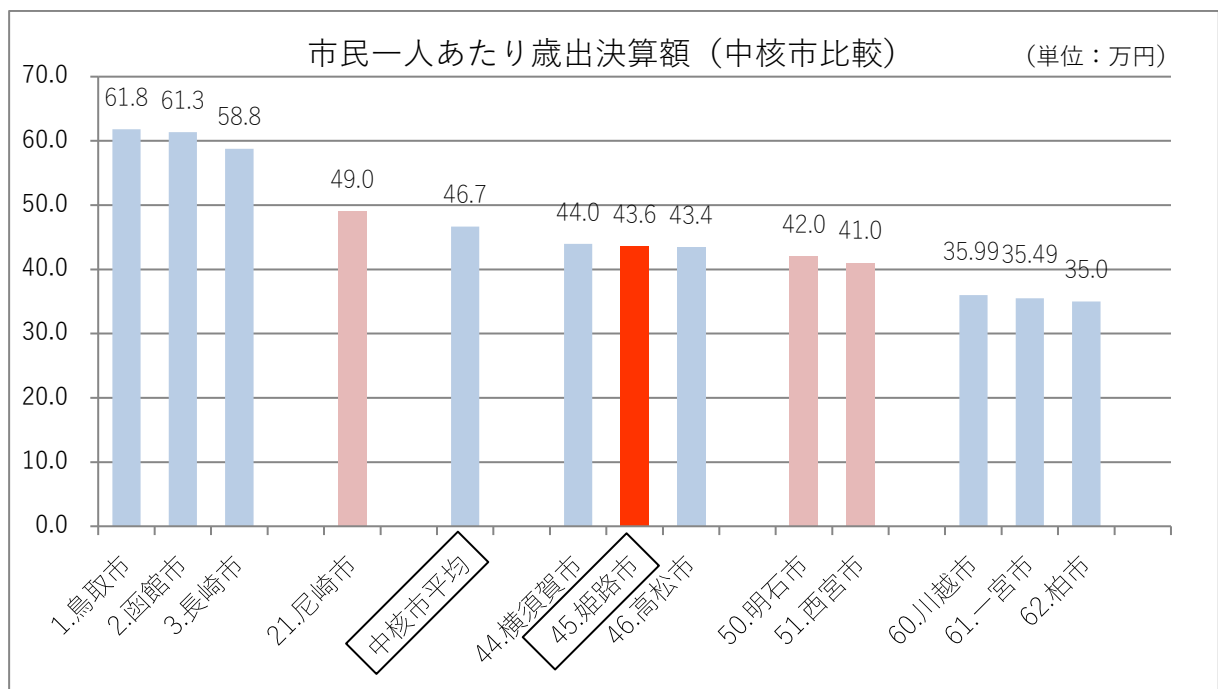
令和5年度の姫路市の歳出決算額は2,285億円です。

これは、中核市62市中6番目の規模で、中核市平均と比べると規模が大きいことがわかります。



歳出額を市民一人あたりに換算すると 43.6 万円になります。

これは、中核市全 62 市中 45 番目で、中核市平均をやや下回っています。



歳出はその使いみちによって、「**目的別経費**」と「**性質別経費**」に区分することができます。次はこれらの区分ごとに歳出の内容を見てみましょう。

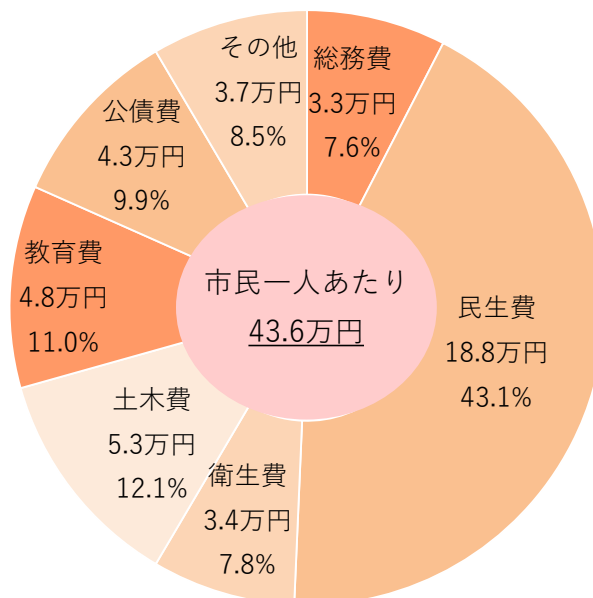
6 歳出を目的別に分類すると

目的別経費とは、その行政目的によって、議会費、総務費、民生費、衛生費、労働費、農林水産業費、商工費、土木費、消防費、教育費、災害復旧費、公債費等に大別されます。

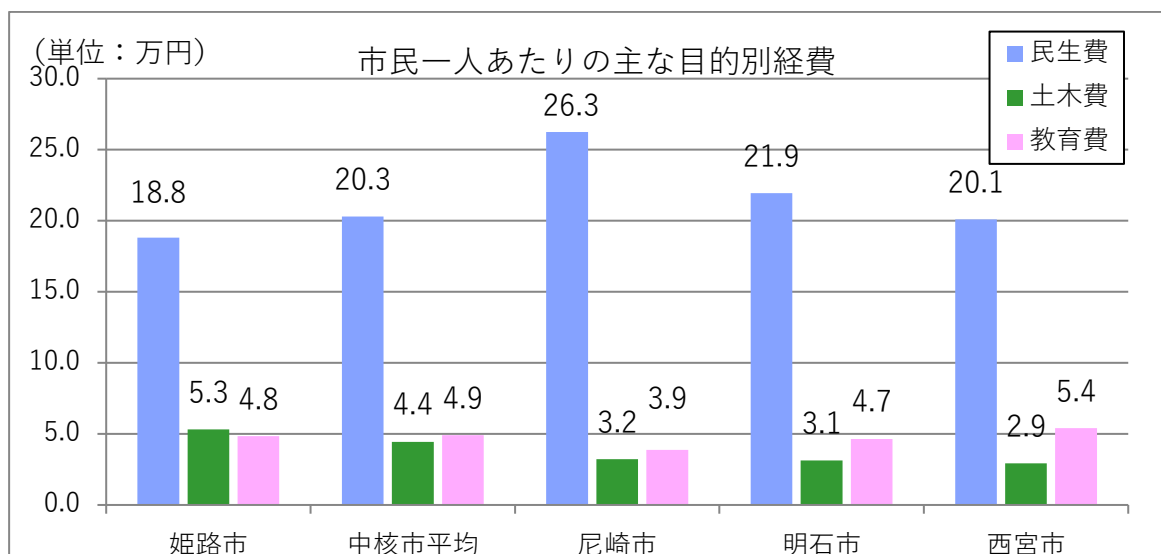
姫路市の令和 5 年度歳出を目的別に分類すると「民生費」、「土木費」、「教育費」、の順に歳出が多くなっています。

「**民生費**」は高齢者や子育て支援など福祉の充実のための経費、「**土木費**」は道路や公共施設の建設のための経費、「**教育費**」は将来を担う子どもたちの教育のための経費です。

市民一人あたりの目的別歳出の内訳

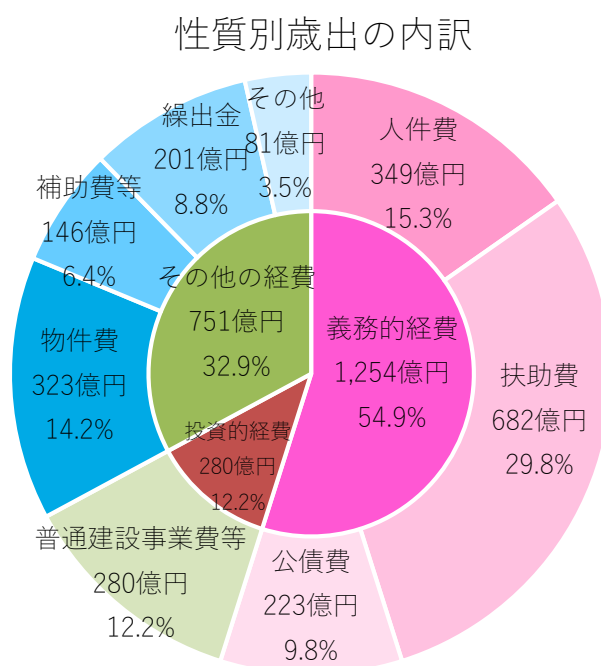


市民一人あたりの民生費は 18.8 万円、土木費は 5.3 万円、教育費は 4.8 万円です。他の中核市でも民生費が多くなっています。また、姫路市は他都市と比べると土木費も多くなっています。



7 歳出を性質別に分類すると

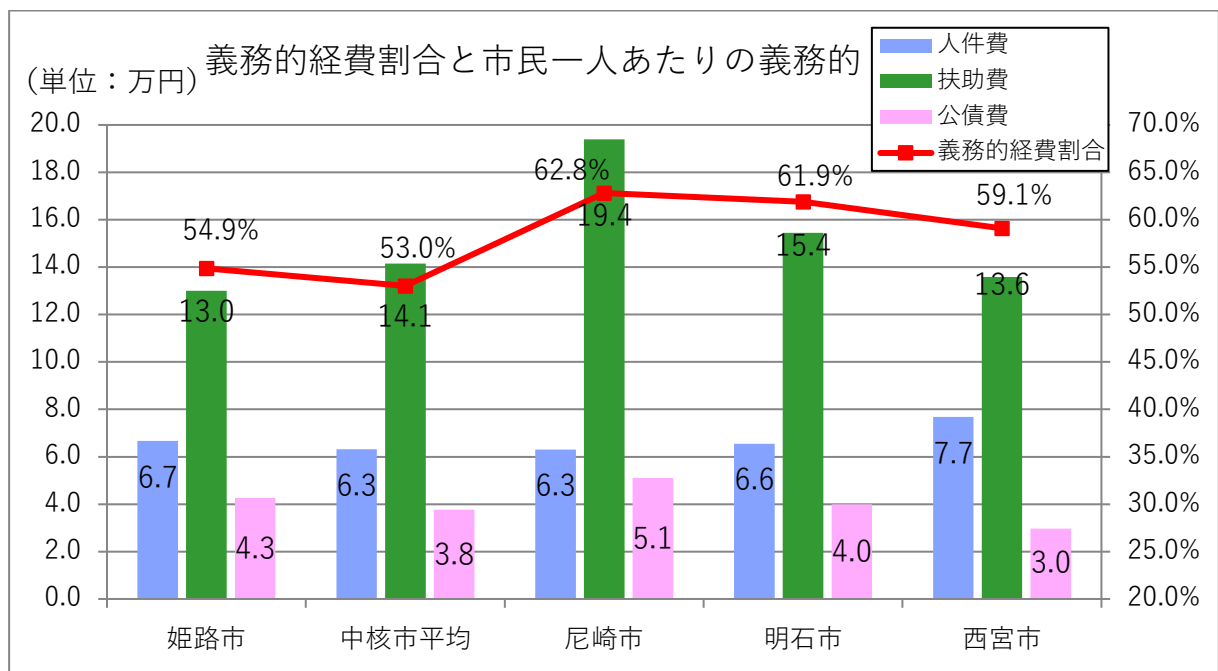
性質別経費とは、その経済的性質を基準として分類したもので、地方公共団体の財政の構造上の特色などを判断するために活用できます。人件費、物件費、扶助費、普通建設事業費等があり、なかでも、任意に削減できない人件費、扶助費、公債費をあわせて**義務的経費**と言います。この経費が占める割合が多いほど、新規事業や独自施策を実施することが難しくなります。



市民一人あたりの義務的経費は、職員の給与や手当、議員の報酬などの「**人件費**」は 6.7 万円、生活保護費や児童手当などの支給や、市が単独で行う各種扶助のための経費である「**扶助費**」は 13.0 万円、市の借入金の返済のための「**公債費**」は 4.3 万円で、それぞれ中核市平均とほぼ同じ水準です。

令和 5 年度決算では、義務的経費のうち人件費は退職手当の減、公債費は元金償還額等の減により、それぞれ減となったものの、扶助費は低所得世帯に対する価格高騰生活支援給付金の給付等により増加しています。

義務的経費の構成比が 54.9%と前年度から増加している理由は、扶助費が増加したことによるものです。

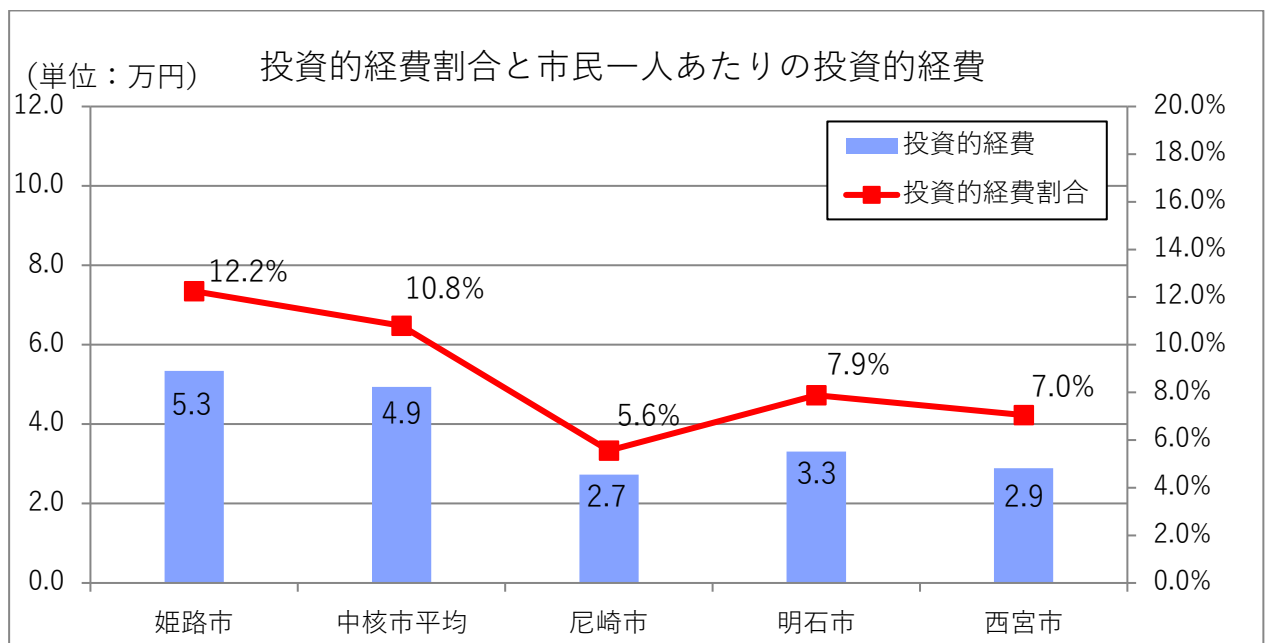


扶助費については、令和 5 年度は、低所得世帯に対する価格高騰生活支援給付金の給付等に伴い前年度より増加しており、扶助費を構成する児童・高齢者・障害者・生活困窮者などの福祉関係経費は増加傾向にあります。

義務的経費は毎年必ず支出しなければならないので、この経費が多くなるとそれだけ自由に使えるお金が少なくなります。

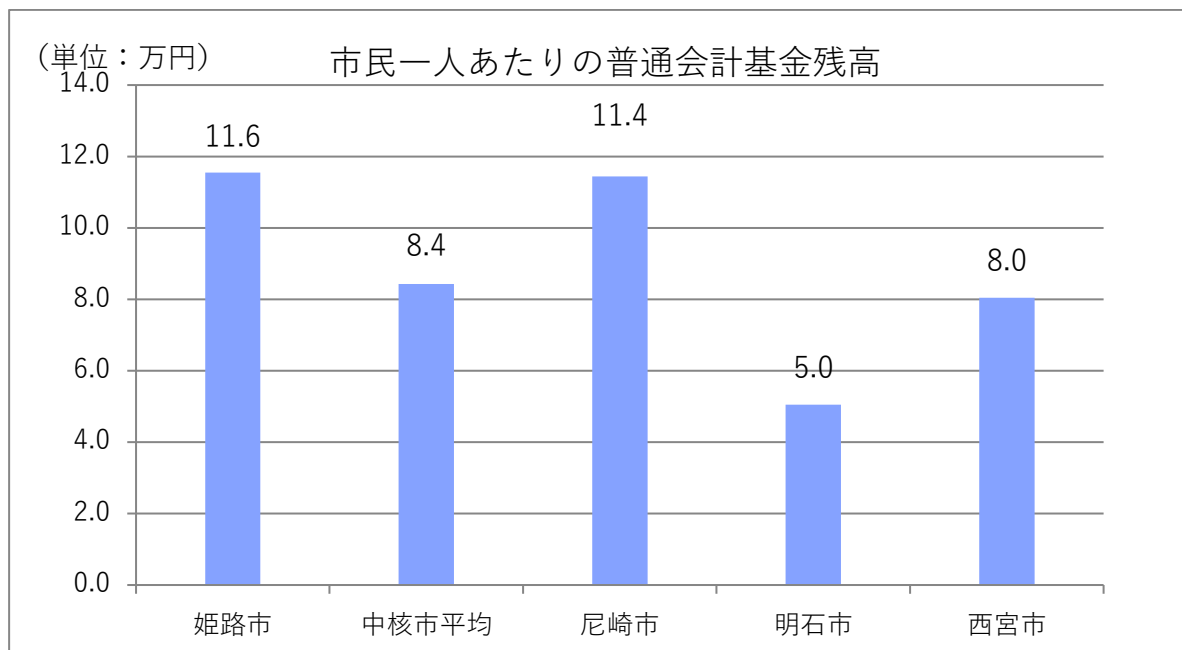
投資的経費は、道路や学校、公共施設の建設などの経費である普通建設事業費と、災害復旧事業費で構成されています。

歳出全体に占める投資的経費の割合は 12.2%で、中核市平均をやや上回っています。また、市民一人あたりの支出額は 5.3 万円で、中核市全 62 市中、38 番目となっています。前年度に比べて手柄山中央公園再整備事業の進捗や姫路球場ナイター整備等により増加しています。今後も手柄山スポーツ施設整備等の大型投資事業や、老朽化が進む公共施設・インフラ等の長寿命化対策などに要する経費が増えていくことが見込まれます。そのため、公共施設マネジメントの推進など効率的な行財政運営を徹底し、投資的経費の確保を図っていく必要があります。



8 基金ってなに？

基金とは市の貯金にあたるものです。姫路市には現在 22 の基金があり、国民健康保険財政安定化基金、介護保険給付費準備基金、水道事業基金を除く姫路市の普通会計の基金残高は、605 億円でした。



市民一人あたりの普通会計基金残高は 11.6 万円で、中核市平均 8.4 万円を上回っており、中核市 62 市中、多い方から数えて 10 番目になります。

これは計画的に財政運営を行うための財政調整基金や減債基金に加え、スポーツ施設整備などに使う 21 世紀都市創造基金など特定の目的に使うための基金を設けているからです。



国民健康保険財政安定化基金、介護保険給付費準備基金、水道事業基金を含む全会計の基金残高は、

普通会計	605 億円	
国民健康保険財政安定化基金	31 億円	
介護保険給付費準備基金	52 億円	
水道事業基金	9 億円	合計 697 億円で、
市民一人あたりにすると 13.3 万円になります。		

9 地方債ってなに？

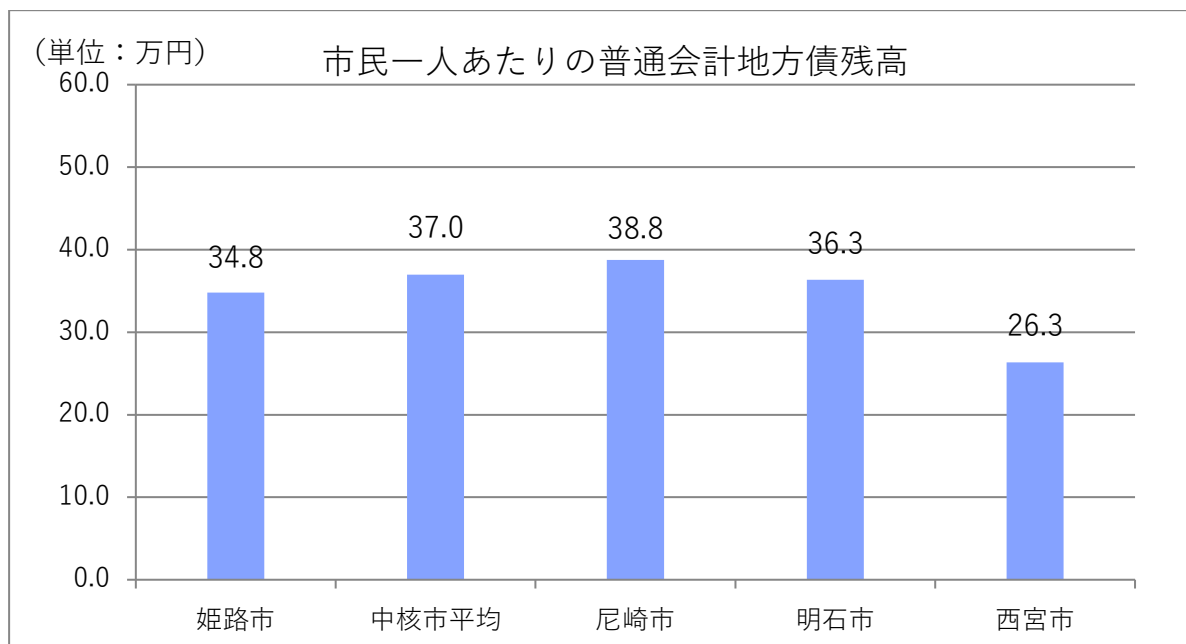
地方債とは、国や銀行などから借り入れた借金のことです。市では道路、学校などの公共施設を整備するときに、その年に集めた税金だけでなく、お金を借りてその費用を賄っています。

地方債（借金）には「**現在の市民と将来の市民の負担を公平にする役割**」と「**毎年の支出を平準化する役割**」があります。

公共施設は、長期にわたって使用されるため、借金を後年度に返済していくことで、将来の市民にも公平に負担してもらうことができます。

また、災害復旧や大規模な施設を整備しなければならない年においても、お金を借りて分割で返済することによって、その他の行政サービスを維持しながら、整備を行うことができます。

姫路市の地方債残高は 1,825 億円で、市民一人あたりに換算すると 34.8 万円となり、中核市平均 37.0 万円と比べると少し低い水準です。中核市全 62 市中、残高が多い方から数えて 39 番目になります。



姫路市全体の地方債残高（借金）は、

一般会計 1,825 億円

特別会計 119 億円

企業会計 1,033 億円 合計 2,977 億円 で、

市民一人あたりにすると 56.8 万円になります。

10 おわりに

本市の令和5年度の普通会計の決算額は、**歳入が2,382億5,375万4千円、歳出2,285億2,194万3千円**で、差引（形式収支）は97億3,181万1千円となりました。また、そこから翌年度へ繰り越すべき財源を差し引いた**実質収支は53億5,709万円**となり、姫路城世界遺産登録30周年記念事業の展開、「子どもの未来健康支援センター みらいえ」の開設、多子世帯のこども医療費の完全無償化等を行うこども医療費助成制度の拡充など、姫路の未来を創造するための様々な事業を実施した中で、黒字決算を確保しました。

歳入では、「コロナ禍」からの回復により、市税収入をはじめとする自主財源が一定程度増加しましたが、人口減少により、依然として、今後の一般財源の増加は見込みがたく、歳出についても、社会保障関係経費をはじめとした義務的経費が増加傾向にあること、また、新たな施設の整備による維持管理経費や公債費負担に加えて、老朽化が進む公共施設・インフラ等の長寿命化対策にも多額の財源が必要であることや、グリーン社会の実現、デジタル化への対応など喫緊の課題へも的確に対応することが求められることから、財政をめぐる状況はより一層厳しいものとなることが見込まれます。

このため、持続可能な財政基盤を堅持するために、行財政改革プランに基づき、収入率の向上や新たな自主財源の確保に努めるほか、歳出では徹底した経費削減や思い切った事業の見直しを行い、「公共サービスの最適化」を目指し努力してまいりますので、市民のみなさまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



用語解説

歳入編

項 目	説 明
自主財源	市が自主的に収入できる市税や分担金・負担金、使用料・手数料などのこと
市税	市民のみなさんから納めていただく税金のこと。姫路市には市民税、特別土地保有税、固定資産税、入湯税、軽自動車税、事業所税、市たばこ税、都市計画税の8つの税があります
分担金・負担金	事業にかかる経費の一部を受益の程度に応じて利用者に負担していただく料金のこと
使用料・手数料	施設の利用や証明書を発行する際などに払っていただく料金のこと
その他	寄付金や、不動産売却などの財産収入、前年度からの繰越金など
依存財源	市が自主的に収入できない国庫（県）支出金や市債などのこと
国庫支出金・県支出金	国（県）の立場から公益性が認められる特定の事務事業に対して市に交付されるもの
地方交付税	すべての地方公共団体が一定水準の行政サービスを提供できるように、国税のうち所得税、法人税、酒税、消費税の一定割合および地方法人税の全額を地方公共団体へ配分するもの
地方債	道路、公園、下水道や学校など多くの市民が何年にもわたって利用できる公共施設を整備する時に、その年に集めた税金だけで賄うのではなく、銀行などからお金を借りてその費用にあてています。その借金のことを地方債といいます（市の場合は市債といいます） 借金をする（市債を発行する）ことによって、建設した施設を使う将来の世代にも公平に費用を負担してもらうことができます

歳出編

項 目	説 明
目的別分類	その行政目的によって、議会費、総務費、民生費、衛生費、労働費、農林水産業費、商工費、土木費、消防費、教育費、災害復旧費、公債費等に大別される
議会費	市議会運営のための経費。市議会議員に対する報酬なども含まれる
総務費	市の庁舎や財産の維持管理、戸籍管理、税金の収納などの経費
民生費	障害者や高齢者の福祉サービス、子育て支援、保育所、生活保護などの経費

	衛生費	環境保全、病気予防、健康増進などの経費
	労働費	勤労者などの支援のための経費
	農林水産費	農林水産の振興や農林整備などの経費
	商工費	商工業や観光の振興などの経費
	土木費	道路や河川、公園などを整備するための経費
	消防費	消防や火災予防などの災害対策のための経費
	教育費	学校教育やスポーツ振興などの経費
	公債費	市債（借金）の返済やその利子を支払うための経費
	諸支出金	他の支出科目に含まれない経費。他会計への繰出金など
	予備費	予算を見積もる際には想定していなかった支出に対応するための経費
性質別分類		地方公共団体の経費をその経済的性質を基準として分類したもの
義務的経費		性質別のうち、その支出が義務づけられ、任意に削減することができない経費。人件費、扶助費、公債費のこと
	人件費	職員の給与や議員の報酬などの経費
	扶助費	生活保護費や児童手当などの支給や、市が単独で行う各種扶助のための経費
	公債費（再掲）	市債（借金）の返済やその利子を支払うための経費
投資的経費		道路、学校、公園などの公共施設の建設や用地取得に要する経費、災害復旧事業に要する経費
	普通建設事業費	道路、橋、学校、庁舎などの新增設の建設事業に必要な投資的な経費
	災害復旧事業費	暴風雨などの自然現象や大規模な火事、爆発などによる災害からの復旧事業に要する経費
その他の経費		
	物件費	賃金、旅費、需用費、委託料、備品購入費などの消費的性質をもつ経費
	維持補修費	道路や公共施設などの維持管理のための経費
	補助費等	市から一部事務組合や各種団体等に対して交付されるもので、謝礼、保険料、負担金、補助金などの経費
	積立金	基金（貯金）の積立に要する経費
	投資及び出資金	株式の取得や法人設立の際の出捐金、開発公社等への出資金に要する経費
	貸付金	市民の福祉増進や地域振興のためのお金の貸付を行うための経費
	繰出金	一般会計から特別会計、企業会計への相互間において支出される経費

姫路市イメージキャラクター



しろまるひめ

姫路城（白鷺城）を象徴する真っ白な肌。
その名の通り、白くて丸くてもちもちしています。
姫路城のボウシをかぶっています。
そして姫路で最も盛り上がるのは春、お花見。
ということで…桜の髪飾りを付けたお洒落さんです。
柔軟で優しい性格。とっても可愛い女の子です。
姫路特有のほっこりした温かさを表しています。